

名立駅MS作戦だよりNo.41

～名立駅移転 50 周年記念集 I 「名立駅を守れ！」～

【トキ鉄開業 4 周年記念イベント】

3 月 10 日（日）午後、多くのみなさんからお集りいただき、トキ鉄開業 4 周年記念イベントを開催しました。

当日は参加者のみなさんと名立駅を春仕様に模様替えを行った後、サクソと篠笛の演奏を楽しんでいただきました。

そして、3 年前から運行している雪月花のお出迎えとお見送りもしていただきました。



このように、JR 西日本北陸線からえちごトキめき鉄道日本海ひすいラインに変わって 4 年になりますが、名立駅は今を遡ること一世紀以上も前の明治 44 年（1911 年）

7 月 1 日、信越線の支線として直江津駅 - 名立駅間が開業した際に設置されました。

この間、時代の変遷とともに経営母体は国鉄～JR～トキ鉄と替わってきましたが、名立駅は多くの関係者や地域のみなさんによって支えられ、今日までつながってきているのです。

私たちが取り組んでいる名立駅マイ・ステーション（MS）作戦の合言葉は『私たちの駅は私たちが守り、つなげる』ですが、今から 50 数年前にまさしく名立駅の存続・存亡に関する重大な事態が発生しました。

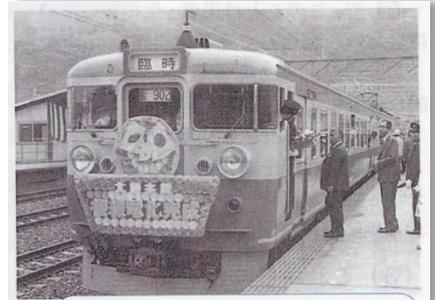
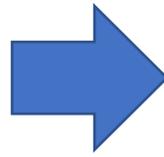
今年、名立駅移転 50 周年を迎えるにあたり、移転後 50 年の歩みを振り返る前まえに、まずは“そのとき”を振り返ってみたいと思います。

【名立駅が移転して 50 年】

昭和 44 年（1969 年）10 月に名立駅が海沿いの名立小泊から約 1 ㎞離れた名立川沿いに移転してから、今年の 10 月で 50 年を迎えます。



旧名立駅ホーム



北陸本線の複線電化の完成を祝う
特別祝賀列車
(1969 (昭和 44) 年 10 月 1 日)

新駅で特別祝賀列車を迎える

50 年と言えば半世紀で、そう思うとずいぶん長い時間が過ぎたような気がします。

この間、名立駅を走る鉄道の経営母体は国鉄から JR 西日本、えちごトキめき鉄道へと移管されたことに伴い、路線名も北陸線から日本海ひすいラインへと名称を変えてきました。

そして、名立というまちを巡る社会環境・情勢も大きく変わり、平成 17 年（2005 年）1 月の市町村合併により上越市名立区となって 15 年目の節目の年に今また新しい時代に移ろうとしています。

このように名立駅の 50 年を振り返ることは名立の 50 年を振り返ることになると思いますが、実はその前に「重大な問題」を抱えていたのでした。

【名立駅がなくなる！？】

昭和 60 年（1985 年）11 月に刊行された『広報なだち縮刷版』に名立駅移転に関する最初の記事が出てきたのは昭和 38 年 7 月 15 日号の「鉄道が隧道（トンネル）化されても、将来名立駅を存続させるためには今から駅の実績を上げておく必要があります。

そのために名立駅では、定期券や往復切符を当駅で買いましょうと呼びかけています。みんなで協力しましょう。」という一文です。

なんと、移転の 6 年も前のことだったのでした。

この記事にあるように当初国鉄が描いていた移転計画は北陸本線の複線電化に伴い、浦本駅から直江津駅までの間、約 22 km を 1 本のトンネルにする計画だったのでした。



今の名立駅の通路と階段に刻まれている名立駅移転の証です。





長大トンネルにすることにより地滑り地帯を避けて安全運行できることに加え、駅の数が減ることで省力化や輸送力の増強につながる効果が考えられる一方、名立駅を含む浦本駅から郷津駅までの7駅が廃止されることになり、通勤や通学、通院など、日常生活の重要な交通手段がなくなるとともに、漁獲物の貨物輸送ができなくなるなど、名立に暮らす人にとって大きな死活問題として浮上してきていま

た。

旧名立駅周辺
まだ未舗装の砂利道です

【名立から駅をなくさないぞ！】

そこで、「この計画を知った沿線住民は「浦本・直江津間長大トンネル反対対策会議」を結成し、反対運動を展開

していった」（「名立町史」から引用）のです。

反対運動で特筆すべきは「昭和39年5月5日から7日までの3日間、長大トンネル反対対策会議が中心になって、糸魚川から直江津へ向けて500人の大デモ行進」（同上）で、「名立町でも同日午前10時に「長大トンネル反対名立町期成同盟会」（会長小林孝治郎）を公民館で結成し、午後3時半に名立中学校前でデモ隊と合流し、約500人が集まり、長大トンネル絶対反対の決意表明を行い」（同上）、7日にも各地で住民大会を開きました。

この後に国鉄から内示された新しいルートは最初の計画では杉野瀬付近の地下30mに鉄道が走り、駅はつくらないという内容から約800m山の手へ入った場所に駅を設けるという折衷案でした。

こうして、現在地に新しい名立駅が設けられることになり、「日本でも初めてという名立川の上にホームが設置される珍しい駅」（同上）になり、昭和44年10月1日から複線電化の運行が開始されたのです。



旧山海荘から俯瞰
踏切があって、田んぼもこんなに…

【広報なだちが伝える反対運動】

昭和39年の広報なだちには、この間の経過や反対運動について毎号のように掲載されています。

- ・3月号 3月定例町議会～北陸線トンネル化反対を決議～
- ・5月号 長大トンネルはちょうだいしません～糸魚川―直江津間をデモ行進～
- ・同 号 長大トンネル反対名立町期成同盟会結成される
- ・6月号 北陸線はどうか～国鉄岐阜工務局の説明会から～
- ・7月号 トンネル反対資金 49,800円
- ・8月号 消えた長大トンネル案～新線に名立駅をつくる・国鉄、現在線に難色示す～

・10月号 新線ルート正式決定（糸魚川・直江津間）～いよいよ現地測量の段階～

そして、翌昭和40年7月号に「名立駅建設計画示される～トンネル工事着工は今秋。44年10月までに完成予定」と具体的な工程が示され、4年後の昭和44年9月号の「さようなら蒸気機関車」に続き、翌10月号で「北陸線複線電化開通～10月1日から新駅でスタート～」の見出しが写真とともに第一面を飾っています。

【これからは私たちが・・・】

このように紆余曲折がありました。これは町百年の運命にかかる重大問題です（昭和39年8月号広報なだち）とあるように、当時の関係者や住民のみなさんの熱心な取り組みにより今も“名立のまちに名立の駅”があることにただただ感謝するのみです。

こうして誕生した新しい名立駅ですが、「もう50年!?!」「まだ50年!?!」、みなさんはどのようにお感じですか？

今回は移転までの経過を振り返ってみたいですが、果たして今どれだけのみなさんが当時のことを記憶されているのでしょうか？



つなげていくという
思いを新たにしていたら嬉しくて

移転後50年間の名立駅の変遷やこの間の名立駅と私たちの暮らしとの関わりなどについては次号以降でお伝えしたいと思います。

そこをお願いします。「こんな写真だけど…」でもお持ちの方はどうぞ事務局までお知らせください。また、新旧の名立駅に対する思い出がある方もどうぞお話を聞かせください。よろしくお祈りします。



後ろは名立川に架かる鉄橋
客車が3両以上あります

からは私たちが
名立駅を守り、
す。

【編集・発行】
名立駅マイ・ステーション作戦実行委員会
代表：畑 虎夫 事務局：三浦 元二（☎537-2439）